

令和7年度 桂川町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米の面積の割合が約55%であり、転作作物に占める麦、大豆、飼料用米、飼料作物等の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積を進めている。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進し、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中で、水田活用面積の維持が課題となっている。

そのほか、麦、大豆については、気象条件や生産体制の各条件等による単収低下が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

協議会が特別振興野菜に指定している、キャベツ、ブロッコリーの作付け推進に取り組む。また、麦、飼料作物等の転作作物の二毛作を推進するとともに、生産性向上に向けた作付けの団地化、適期作業、低コスト化に取り組むなど、農業者の所得向上や水田農業の発展等を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

毎年、農家から提出のある営農計画書を基に、作付を行っていない保全管理地の把握を行っている。また、交付対象作物の現地確認時に水田の利用状況の点検を行い、点検結果を踏まえ可能な圃場については、畑地化支援の推進を検討する。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本とし、売れる米作りの徹底によって米の産地形成を図る。また、高温障害対策の徹底や高品質・良食味品種である「元気つくし」への転換等により品質向上を図る。

さらには、特別栽培米（福岡県認証米：減農薬減化学肥料栽培）を軸とし、食味・栽培過程が見え厳選された商品の販売拡大に取り組むなど、地域地帯別、生産・消費に即応した販売生産を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米からの主要な転換作物として、今後も作付増進及び収量増加に取り組む。

イ WCS 用稲

肥培管理を徹底した生産体制を推進するとともに収穫量の適正化を図る。

また、WCS 用稲の供給を受けた家畜由来の堆肥を、WCS 用稲の作付水田に施用する耕畜連携の取組支援による低コスト化等に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆については、産地交付金を活用して、現在作付している担い手の面積を麦 R6 現状：68.5ha→R8 目標：73.0ha、大豆 R6 現状：2.5ha→R8 目標：3.0ha へと拡大し、麦・大豆の面積カバー率を向上させ、あわせて麦の二毛作を推進し、水田利用と所得の両方を向上させる。また、作付の際には水系別団地、適期作業、作付集団等の作業分担を明確化し、増収に向けた取り組みを図る。

飼料作物については、二毛作により水田の有効活用を図るとともに、低コスト化等を目的として供給を受けた家畜由来の堆肥を、飼料作物の作付水田に施用する耕畜連携の取組支援を行う。

(4) 高収益作物

地域の特色を生かした作物の生産推進により水田の有効活用を図る。

そのため、「ブロッコリー」、「キャベツ」を振興品目として産地交付金を活用して作付面積を R6 現状：2.3ha→R8 目標：8.0ha に拡大する。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	240.8	0.0	245.03	0	242.1	0.0
飼料用米	33.9	0.0	22.56	0.00	42.0	0.0
WCS用稲	19.1	0.0	12.77	0.00	14.5	0.0
麦	68.5	60.1	54.95	39.29	73.0	65.0
大豆	2.5	0.0	2.64	0.00	3.0	0.0
飼料作物	21.7	4.2	24.76	4.81	9.0	6.5
高収益作物	2.3	0.8	3.67	2.57	8.0	5.0
・野菜	2.3	0.8	3.67	2.57	8.0	5.0
畑地化	0.0	0.0	0	0	0.0	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦・大豆	麦・大豆担い手加算支援助成（基幹）	排水対策を実施する面積	（R6年度） 10.1ha	（R8年度） 11.0ha
2	麦	麦担い手二毛作助成（二毛作）	二毛作麦作付面積 二毛作作付率（耕地利用率）	（R6年度） 60.1ha （R6年度） 14.33%	（R8年度） 65.0ha （R8年度） 15.48%
3	飼料作物	飼料作物助成（二毛作）	二毛作飼料作物作付面積 二毛作作付率（耕地利用率）	（R6年度） 4.2ha （R6年度） 1.0%	（R8年度） 6.5ha （R8年度） 1.54%
4	ブロッコリー・キャベツ	特別振興野菜支援助成（基幹）	作付面積	（R6年度） 0.8ha	（R8年度） 3.0ha
5	ブロッコリー・キャベツ	特別振興野菜支援助成（二毛作）	作付面積	（R6年度） 0.8ha	（R8年度） 5.0ha
6	飼料作物・WCS用稲	耕畜連携（資源循環）助成（耕畜連携）	飼料作物作付面積 低コスト化に取り組む面積	（R6年度） 36.6ha （R6年度） 22.1ha	（R8年度） 45.0ha （R8年度） 45.0ha
7	飼料作物・WCS用稲	耕畜連携（資源循環）助成（耕畜連携・二毛作）	飼料作物作付面積 低コスト化に取り組む面積	（R6年度） 4.2ha （R6年度） 0ha	（R8年度） 6.5ha （R8年度） 2.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:福岡県

協議会名:桂川町地域農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	麦・大豆担い手加算支援助成(基幹)	1	4,000	麦、大豆	JAまたは実需者と販売契約締結、排水対策、肥培管理の適正な実施
2	麦担い手二毛作助成(二毛作)	2	9,000	麦	JAまたは実需者と販売契約締結、肥培管理の適正な実施、基幹は主食用米または戦略作物
3	飼料作物助成(二毛作)	2	14,000	飼料作物	実需者と利用供給協定締結、基幹は主食用米または戦略作物
4	特別振興野菜支援助成(基幹)	1	25,000	ブロッコリー、キャベツ	販売目的での生産、基幹作・二毛作あわせて20a以上の作付
5	特別振興野菜支援助成(二毛作)	2	25,000	ブロッコリー・キャベツ	販売目的での生産、基幹作・二毛作あわせて20a以上の作付
6	耕畜連携(資源循環)助成(耕畜連携)	3	13,000	飼料作物、WCS用稲	耕畜連携の取組、相手方との利用供給協定締結
7	耕畜連携(資源循環)助成(耕畜連携・二毛作)	4	13,000	飼料作物、WCS用稲	耕畜連携の取組、相手方との利用供給協定締結

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。